

場 所		分 類			
原子炉建屋内	RB	R 3	1 時間	被ばく低減対策好事例集	
タービン建屋内	TB		2 距離		
R ZONE	R		③ 遮へい		
Y ZONE	Y		4 線源の除去		
G ZONE	G		5 遠隔、味 <sup>ミ</sup> ト化		
その他( )	Z		6 汚染拡大防止		
			7 その他		
			番 号		
				28-12	
内 容	遮へい小屋の設置				
作業部位	1~4号機 海側エリア				
概 略	管理員用の鉛遮へい小屋を設置し、被ばく低減を図った。				
評価 (定性・定量)	効 果			低減量	
		被ばく線量(mSv)		66	
		人工数(人日)		--	
事例詳細					

対策前 管理員は常時現場で作業管理を行っており、比較的低線量率エリアでも長時間滞在して被ばくが多かった。

対策内容 管理員用の鉛遮へい小屋を設置。管理員は現場の作業管理時以外はそこで待機し、被ばく低減を図った。

1. 管理員の待機用鉛遮へい小屋を設置し、作業時間の50%を鉛遮へい小屋で待機  
(鉛遮へい小屋の遮へい効果:約50%)

## 2. 予想効果

(1) 作業人員: 2人 × 100日 = 200人

(2) 作業環境線量率: 低減量 20人・mSv

対策なし:  $0.10\text{mSv/h} \times 4\text{時間} \times 200\text{人} = 80\text{人}\cdot\text{mSv}$

対策あり:

$(0.10\text{mSv/h} \times 2\text{時間}) + (0.05\text{mSv/h} \times 2\text{時間}) \times 200\text{人} = 60\text{人}\cdot\text{mSv}$



待機用鉛遮へい小屋

<注意点>遮へい小屋の大きさは、使用する作業者人数により、最適なものを検討・設置することが大切です。